

朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）

平壤で全国人民消費品展示会開幕

『朝鮮新報』によれば、全国人民消費品展示会が2009年9月10日、平壤市の中央軽工業製品見本館で開幕した。

展示会には北朝鮮各地の軽工業工場と省、中央機関傘下の工場、企業所、生活必需品生産単位、各道の地方産業工場で製造された生地や靴、衣類、日用品、食料品などの製品が出品された。展示会期間中、紡績、靴、織物、化粧品、基礎食品（味噌、コチュジャン、醤油などの調味料）などに対する品評会が行われると報道された。

北南経済協力事務所の運営再開

開城工業地区内にある南北経済協力協議事務所が2009年9月7日から運営を再開した。同事務所は北朝鮮側の措置により、今年3月より南側の人員が撤退し、業務が中断していた。

8月17日に発表された朝鮮アジア太平洋平和委員会と現代グループの共同報道文によれば、南北双方は開城工業地区事業を活性化することで合意し、北側の中央特区開発委員会が8月20日付で開城工業地区管理委員会に「北南経済協力協議事務所を正常運営し、関係者の出入、滞在を以前の状態に戻す」と通知した。

第5回平壤秋季国際商品展覧会開催

『朝鮮新報』は、第5回平壤秋季国際商品展覧会が9月21～24日、平壤の3大革命展示館で開催されると報道した。報道によれば、展覧会には、北朝鮮と中国、オランダ、ドイツ、スウェーデン、英国、オーストラリア、オーストリア、イタリア、インドネシア、ベトナム、フランス、フィンランド、ポーランド、香港、台湾の企業が参加する予定で、工作機械、電気・電子設備、鉄道・自動車、石油化学製品、医薬品、日用品、食料品などが出品されるとのことであった。

平壤科学技術大学第一段階竣工式

『朝鮮中央通信』によれば、平壤科学技術大学の第1段階建物の竣工式が9月16日に行われた。竣工式には、全克万教育次官と関係者、金鎮慶・同大学設立総長（中国・延辺科学技術大学総長・韓国系アメリカ人）を団長とする代表団メンバーが参加した。

竣工式では演説が行われ、金鎮慶設立総長に平壤科学技術大学共同運営総長の任命状が伝達された。その後、参加者は大学の建物を見て回った。

金氏によると、同校は大学院大学として運営される。同

校入学予定者の多くは金日成総合大学や金策工業総合大学など朝鮮トップレベルの大学出身者で、授業はすべて英語で行われるという。現時点では、世界各国の大学や研究所、先端産業分野に従事した専門家など20人で教授陣を構成する予定で、学部増設にしたがって増員していく計画とのことである。

国家科学技術委員会が発足

『朝鮮中央通信』によれば、最高人民会議常任委員会は9月18日付で政令を発表し、朝鮮民主主義人民共和国国家科学技術委員会が発足すると発表した。

これまで、科学院が科学研究分野の研究・管理双方を行ってきたが、今後は科学院は研究分野、国家科学技術委員会は管理と役割分担を行っていくこととなる。

150日戦闘の終了と100日戦闘の開始

『朝鮮新報』によれば、朝鮮労働党中央委員会が9月21日に報道文を発表し、「150日戦闘」が勝利のうちに終結したと宣言、全人民が「100日戦闘」に立ち上がることを呼びかけた。

報道文は、4月20日から9月16日まで行われた150日戦闘は「今年を強盛大国の建設において分水嶺を成す偉大な変革の年として輝かすための全党的な総攻撃戦、全国家的な総動員戦、全人民的な総決死戦であった」、「近年、かつてなかった革新、飛躍が遂げられ、国の経済全般が確固たる上昇軌道に乗ることになった」と総括し、文化分野で成果をあげたことにも触れた。さらに、「150日戦闘」の勝利を通じて帝国主義勢力のいかなる「制裁」も朝鮮には絶対に通じないということを全世界にはっきり示したと述べた。

報道文はまた、「150日戦闘」に引き続いて行われる「100日戦闘」について、「今年を祖国の歴史に特筆すべき偉大な転換の年として輝かすための最後の突撃戦であり、党創建65周年に当たる来年により大きな勝利を収め、2012年に強盛大国の大門をくぐることのできる跳躍台を築くための攻撃戦である」と定義した。

2年ぶり離散家族・親戚の面会

『朝鮮新報』によると、9月26日から10月1日まで離散家族の面会が金剛山で行われた。26日から28日まで南側の97家族が北側に住む家族228人と面会。続けて29日から10月1日まで、北側の99家族が南側の450人と会った（後に、一組の家族の面会が親族ではない別人と組まれる手違いがあったことが判明）。

（ERINA調査研究部研究主任 三村光弘）